

# 農業政策への提言

アイスクウェア 福田高志

## 青果物流通改善のための提言

以下の3項目についての提言をまとめました。

### 1. 国内産野菜の競争力の強化のためにインフラ整備

「野菜価格は国際競争にさらされているが、生産のための資材・原料・設備は、国際的に見てかなり割高で推移。輸送についても、中国からの輸送の方が九州・北海道より安いケースがある。現在の仕組みは国内の高止まり価格体系の中にあるが、変更していかないと競争できない地代はすでに借地料の形ではかなり安くなっている。」

- ①肥料・農薬・資材のディスカウントの仕組みの構築
- ②輸送コスト低減のために、対応策――農産物輸送のためのガソリン・軽油税金の免除。高速料金の減免。―フリーウェイとの格差―コンテナ規格・パレット規格の標準化。鉄道輸送の拡充計画。外航船輸送の内航利用。
- ③市場外輸送のターミナルの整備・共同使用
- ④担い手農家への農地集積・資材購買支援など
- ⑤農家の生産付随業務への支援業務の組織化・システム化――JPAO

### 2. 加工用業務用野菜生産への政策支援のシフトが必要

「現状は生食用・小売り用の野菜生産をベースとしたインフラであり、加工用業務用でない。需要の55%は加工用業務用であるが、補助金制度などもまだ生食向けに成立している。」

対応策としての政策誘導

- ①加工用・業務用野菜の品種開発
- ②同じく営農指導
- ③市場外輸送のターミナルの必要性
- ④融通し合える市場システムの設置
- ⑤余剰となる野菜の販売――寄付・直売所

### 3. 環境保全型農業へのシフト・推進

「WTOの交渉枠組みでの日本農業の選択肢としての環境保全型にして持続可能型の農業モデルの構築日本モデルとしての提示を今後進めるべき。」

- ①生物多様性への配慮を基本ベースとした農業の普及
- ②生産履歴システムの標準化・低コスト化による無償配布で、全販売農家に標準整備
- ③土壌検査により最新のIPM/IBMに基づく科学的な施肥設計の普及
- ④連作障害による土壌バランスの破壊の歯止め――指定産地制度自体の見直し
- ⑤環境保全型農業のブランド化支援など

以上